

目次

はじめに

第1部

参加型による学び

2007年度解放大学ゼミの議論から

1. 参加型による人権啓発とは

1 同和問題を人権啓発で扱うときの難しさ

人権啓発と“正解”……6

●●● たまりとコーヒー……6

なぜ同和問題を参加型で扱うのは難しいのか？……9

二つの帽子 啓発リーダーの特徴と活動家の特徴……10

学習者がおとな（成人）であること……12

同和問題についての学習・啓発を通して、

わかってほしい、伝えたいこと……12

おとなが効果的に学ぶ場をつくるために指導者が留意すべきこと……13

同和問題を参加型学習で扱うことの可能性……14

2 参加型による人権研修の場づくりとは

「自由に意見を言っていていい」「参加者の意見を尊重する」とは……15

●●● 学びの場に必要配慮 「心地よい」場と「安全・安心」の場……15

「ルールづくり」の意味……19

ワークショップの場づくり……19

ワークショップの「ルールづくり」の意味……19

実際のルールづくり 解放大学の実践から……20

3 参加型人権研修の指導者に求められるもの

「こんなときどうする?!」直面する困難を検討する……22

●●● ファシリテーターの“悪夢”を解決する……22

ファシリテーターの姿勢……26

適切な問い……27

介入について……27

ファシリテーターのための介入の指針……27

介入の仕方考える……28

もとめられる資質とは……30

人権研修のファシリテーターであるために望ましい条件……30

2. 教材づくりの実践から

1 参加型での教材づくり

なにを教材としてとりあげるか／どのようなアプローチがあるか……32

身近なことと原理原則から考えていくことの利点と限界……32

参加型の教材の基本……34

経験学習の4段階……34

2 実際に作成した教材から

参加型学習の醍醐味……36

教材の開発過程……37

教材の実践と改善……37

「あなたなら、どう答える？」カムアウト・立場宣言……38

「校区再編を考える」土地差別……41

●●●「よい教材」とは？ 教材を活用するにあたって……49

パイロット版「“うわさ”に返す言葉」差別発言……50

パイロット版「不安のもととは？」結婚差別……54

実践記録

「あなたなら、どう答える？」……57 / 「校区再編を考える」……65

「“うわさ”に返す言葉」……75 / 「不安のもととは？」……80

試作教材紹介

「抗議はコワイ？」……83 / 「〇〇さんから学ぶ」……84

第2部

参加型による人権啓発への提言

人権啓発の目指すもの 上杉孝實……86

これからの人権啓発に求められるもの 意識調査の分析をふまえて 時岡新……88

参加型学習の光と影 渥美公秀……96

ある教材の深化 「非識字体験ワークショップ」の実践から 廣瀬聡夫……107

先行教材紹介「もし、あなたがよみかきできなかつたら？ 駅員とお客の会話」……116

第3部

資料

人権研修のための参考文献リスト……124

実施記録

2007年度部落解放・人権大学講座ゼミナールコース……127

同和問題に関する参加型学習教材開発研究会……129